

Office環境でデジタルテストを簡単作成し、自動集計 評価や指導をスピーディーに

学校への1人1台タブレットの導入が進む中、授業で使用する紙の小テストをタブレット端末用のデジタルテストに変換できるのが、大日本印刷株の「DNPデジタルテストシステム(Answer Box Creator)」だ。ここでは、今年度から数学の授業で活用している京都市立西京高校附属中学校・久保泰雄教諭の実践例を紹介する。



▲解答手順を含めて保存できるのが魅力

■デジタルテストの敷居を低く



▲久保泰雄教諭と小テストに取り組む3年生

「問題を配布するから準備して!」。久保教諭の声に一齐にタブレットを立ち上げる生徒たち。すると、ファイル転送ソフトで配信されたWord画面が表示。テスト開始の合図を待って、生徒たちは計算の問題に取りかかった――。

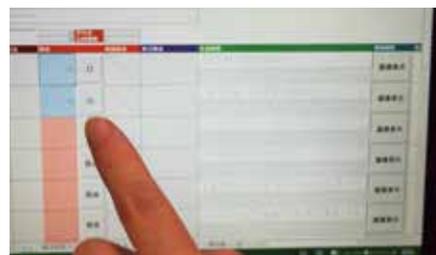
現在、多くの学校では生徒の理解度を把握し、指導に反映するために小テストを実施している。しかし、1人ひとりの細かな分析までは手がまわらないに加え、解答例など指導に活かせる貴重な情報も、時間に限りがある授業の中では活用するのが難しかった。

こうした声に応え、教員が使い慣れているWordを操作するだけで簡単にデジタルテストが作れ、解答データをExcelで採点・集計できるようにしたのが「Answer Box Creator」だ。これにより、教員はテストの結果をスムーズに把握して学力向上につながる指導に反映できるとともに、既存の教材も再利用できるため新たにタブレット用の教材・問題集を揃える必要もなくなる。

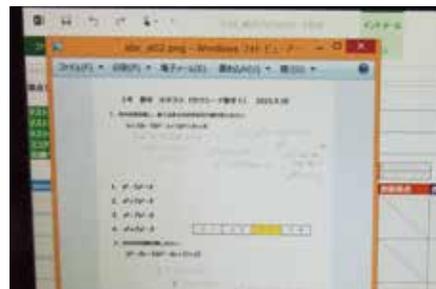
実際にデジタルテストを作成している久保教諭も「Wordで作成した問題に解答欄を配置するだけと簡単。他のソフトで作成した場合も、Wordに貼り付ければ使用できます。しかも、選択問題だけでなく自由記述問題にも対応して

いるため、たとえば今日の因数分解問題も計算式を含めて記述させることができます」と手軽さを強調する。

■生徒の解答プロセスを動画再生



▲自由記述問題は先生が目視で採点



▲解答手順が見れる動画再生機能

その上で、「小テストの結果を速やかに生徒の指導に活かせる」と評価するのが、答えを記述していく過程が見られる動画再生機能だ。

小テストが終了すると生徒たちの解答を教員用タブレットに回収。久保教諭はその中から1人の生徒の解答を選んでタブレットに配信して再生した。生徒たちが解答手順を見ながら、「あっ、迷った」「やり直した」など口々に話し始める中、再生されている自分の動画を見た生徒が「わたし、ここで間違っただんだ!」と声を上げる場面も。

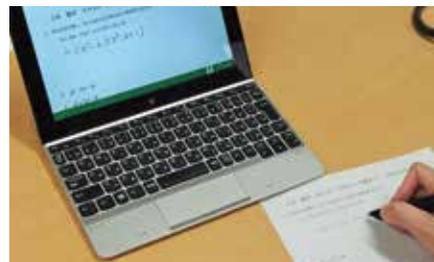
「教員にとっては生徒がどこでつまづいたかをリアルタイムに確認できる。また、この生徒のように自分の解答プロセスを見直すことで間違いに気づいたり、他の生徒の考え方を知る機会

になったりと、単なるテストだけでなく、こうした発見や学び合いに活用できるのが、もう1つの魅力ですね」

加えて、生徒ごとの合計点や問題ごとの正答率などを集計できる機能にも触れ、今後は学習状況に基づいた指導にも意欲を見せる。「実は、今日の小テストは以前にも同じ問題で行っているもの。これを今回の結果と比較することで、学習の定着具合を確かめたいと思っています」とねらいを口にした。

■各教科での活用も始まる

さらに付属の用紙印刷ソフトウェアでプリントされたテストにデジタルペンで記入することで、タブレットに解答を取り込むことも可能。紙への記入のため証明問題や論述式などの記述量の多いテストに適している。また、生徒の振り返り用に問題用紙を生徒の手元に残した運用も可能だ。



▲デジタルペンなら紙でもOK!

今後の展開について久保教諭は「10月からは他教科でも活用を始める予定です。私自身、これに出会うまで数学でICTを効果的に活用できる方法がなかなか見つからなかったように、各教科でどんな使い方が生まれるのが楽しみにしています」と期待した。大日本印刷ではこうした学校現場の活用を通して、さらなる機能の追加やバージョンアップを図っていく意向だ。